

平成24年度・初版

# 南沢お散歩手帖

岩手県一関市萩荘南沢地区



掛って入れ

平成24年度初版

南沢お散歩手帖

東北を巡る旅の途中で、  
まだまだ知られていない、  
田舎の原風景に出会いました。  
このお散歩手帖は、  
その場所への入口です。

岩手県一関市萩荘南沢はコチラです。



2011年11月6日 | 自鏡山奉納殿にて

「序章」エピローグ

「自鏡山奉納神楽」



ようこそ、

萩荘南沢へ。



神楽のある日常。

「あのお囃子隊、上手だなあ」  
「若いのもいい節回しだべ」  
「こんなのどかな神楽談義が  
あちらこちらで飛び交う。  
少々飲み過ぎて顔が真っ赤な  
あの爺さんは「太鼓の名手」。  
けたけたと高笑いしている  
あの爺さんは「伝説の女形」。

平日は農作業に精をだし、  
週末の夜は公民館に集まって  
みっちり神楽の練習に励む。

決してお金では得られない  
伝統に裏付けされた娯楽が、  
皆の身体に染み込んでいる。  
ここは神楽の里、萩荘南沢。

ここは岩手県一関市  
萩荘南沢付近の山神社。  
只今、神楽の鑑賞中！

毎年、春と秋に開催  
自鏡山奉納神楽とは？

▶お散歩手帳の舞台「萩荘南沢」から車で5分程で到着する三角山。ここが南部神楽伝承の地とされる霊山「自鏡山」。ここで毎年、山の神様に捧げる神楽演舞が聞かれている。ゲスト団体も多く参加する。



どうもはじめまして、  
萩荘南沢へようこそ。

ある秋の朝、JR一ノ関駅で新幹線を降りた。「平鬼が世界遺産登録されたこともあり、観光客の活気が満ちている。一路南沢に向かうため、タクシー乗り場で行き先を告げた時だった。『ごめんなさい、南沢ってどこですか？』『えっ？』。結局、携帯のナビを頼りに、山あいの集落に辿り着くことができた。ひと言でいえば、このような里山集落である。ただ、「古き良き田舎の伝統がここにはある」。そう気づかされるのに、さほど時間はかからなかった。

Q 南沢ってどこですか？

一関市の東南東、栗駒山麓に  
沿く山間部にあります。



Q 南沢へのアクセスは？

【車】東北道一関IC下車、南側4号  
泉経由で国道457線へ、栗原方  
面に約20分。直売所よってがえ  
の看板がある交差点を左折。  
【電車】JR一ノ関駅下車、タクシーで  
約20分。R457を栗原方面に向  
かった、萩荘南沢集落と伝言。

# 第一幕 | 南沢と神楽

## 南沢お散歩手帳



▶実はかつて神楽は女人禁制。ただ、南沢では女性が主役！なのです

▲小学生に伝承と学校で舞を学ぶという



世代を超えて、  
継承されるリズム。

平日は米づくり。週末は神楽役者。週末は神楽役者。目の前に広がるのは、田んぼ、山小川、懐かしい昭和の農村風景です。住民は「おらほには何も無い」とよく言います。でも、見渡せば景色以外にも、皆が当たり前と想っているものの中に、時を超えて伝わる宝ものがありました。「そつた、神楽がある」。集落に伝わる「南沢神楽」は、娯楽性に富んだ内容と独特のリズムが特徴で、見る者をワクワクさせる珠玉の芸能です。

平日は米づくり。  
週末は神楽役者。

地元の暮らしに欠かせない「南沢神楽」ですが、過去には消滅の危機がありました。伝承復活の契機になったのは、1995年に発生した阪神淡路大震災。災害を機に地域住民の連帯感に変化が表れました。神楽を通して地域の結束をはかり、同時に震災の犠牲者へ

「遊ぶところはねえが、  
ここには神楽がある。」

人技を途絶えさせることなく継承しようと、60代の先輩たちに続き、今度は村の青年団「南星会」が立ち上がりました。2011年に行われた地域おこし事業「南沢出張マルシェ」の鶴舞披露をきっかけに定例の練習に参加するようになったのです。

の鎮魂と慰めに舞を捧げたいと、当時の若手が神楽復活に動き出したのです。その時の中心メンバーも現在は60代。指南役の面々は80代を超えました。

地元の小学校では、必ず神楽「鶴舞」を教わります。わけもわからずに習い覚えた鶴舞には、南沢神楽の重要な要素がぎっしり詰まっています。独特のリズムも舞の形も「30年前、小学生だった子どもたちの体が覚えていた」。これも伝統の底力。練習場に若い活気もどおり、「もつと腰下ろせ」としかる先生方の顔もほころんでいます。

▼南沢神楽の次世代の担い手たち



### 南沢の豊かさのルーツ

▶南沢の人々は皆良く笑う。しかも表情が豊かだ。自然や伝説を表現する神楽の血筋なのかもしれない



そもそも神楽(かぐら)って何だろう？



## 第二幕 | 南沢の神楽 南沢お散歩手帖

1 実は又狂が大活躍!

▼かつて神楽は男性のものでした。修験の山自体が女人禁制、当然、演じ手も男性、でも現在の南沢神楽を支えているのは集落のお母さんたち。舞や太鼓の重要な役割りを務める実力者で、伝承云の牽引車的存在となっています。



「百官舞踊公なり」

2 主役翁経もお母さん。

▼歴史的ヒーロー・翁経は、神楽演舞でも花形です。主役の翁経を演じるのは、実は集落のお母さん。小柄で敏捷、しなやかで中性的なイメージがある翁経は、女性にぴったりのあまり役になりません。日本であつた一人、石川さんしか舞うことができない「翁経ひとり舞」も見逃せません。

ハア〜ハツ！  
ヤア〜ツ！



チヤンクチヤンカク  
チヤンクチヤンカク

ドンドンドンドン

3 衣装はオーガーマイト

▼観客の目を惹きつけ、外国人も大絶賛の鮮やかな衣装。これらはすべて集落の女性たちの手仕事によるものです。くねいな仕立ては、地元呉服店からオーダーが入るほどの出来映え。パツチワークのように布を接ぎ合わせて作る衣装には、作り手のセンスが光ります。

もし有名ブランドのデザイナーがみたら驚くかも！



石川氏



4 次世代の救世主！  
▼最近では主力の高齢化が進み、80代を先生に60代が芸を磨いているという状態でした。そんな現状をなんとかしようとする集落の青年会「南屋会」が立ち上がり、また今では週一回の定期練習に若手が積極的に参加しています。



南部神楽の名司会者 “石川氏” が伝授。  
神楽を知らなくても 楽しめる鑑賞のツボ！

# 南沢神楽の鑑賞ポイント 10



5 おまじにエンターテインメント

▼山伏神楽を源流とする南沢神楽。長い歴史を経て、神に捧げるものから人々を喜ばせる祭りの要素が強くなったと言われています。舞台は、楽器と歌と踊りが一体となつて織りなすエンターテインメント。客席では、心地よい感動に涙を流す姿も見られます。

6 伝承スポット「目鏡山」

▼田圃の中にひとときわ目立つ、端正な山容の目鏡山。平泉文化が花開くより遥か昔、坂上田村麻呂の時代から神聖な場所とされ、藤原三代も信仰した伝説のパワースポットです。現在でも、この空間で神楽を演じる際には、何かが降りてくるような、不思議な感覚に取り付けられることがあるそうです。

7 翁経&弁慶は夫婦？

▼翁経を女性が演じていることは紹介しましたが、相手役の弁慶はそのご主人。夫婦で演じる「安宅の関」は、悲運の主役の深い情愛が表現され、南沢神楽の真骨頂ともなっています。弁慶が翁経の素性を隠すため、散えて翁経を打ち据える場面が有名。息のあった舞台には、熱心な通っかけファンもいるとか！



義経公を平り抜いた  
「武藏坊弁慶なり」

命をかけた  
物知りです

10 源流の地に行つて、まずは観るべし！

南沢神楽は、山形県出羽三山・羽黒山系の山伏による山伏神楽に由来すると言われています。古来より人々の信仰を集めてきた目鏡山は、羽黒山の山伏が修業する修験の山でもあり、山伏神楽はこの山で成熟をとげました。時は移り、修験者が神に捧げるものであつた神楽は、民衆のため神楽の色彩の強いものに変化して現在の南沢神楽の形に至っています。

目鏡山の山腹には、平成21年に「南部神楽・源流の地」の祈念碑が建立されました。南沢神楽は、南部神楽の一派に分類されますが、この場合の「南部」は、北部の早池峰神楽に対して名付けられたという説が有力。祝い事や祭りだけでなく、折に燃れ旗で集まり、酒を酌み交わしては演じられる南沢神楽は、集落の暮らしに根付いてきたのです。

演目は歌舞伎にもある時代物などが数多くあり、観しみやすい内容になっています。伝承方法は、舞も囃子も口伝が基本。舞や太鼓の習得は、太鼓のリズムを表す「スツタコダコニコ」といった口唱歌を用います。形を見ることも大切ですが、普段から先代の姿を観察しその心構えを直に感じながら、繰り返し修練を積むことが肝要とされています。南沢神楽、まずは実地に出向いて鑑賞し、その真髄に附けてみてください。

翁経を演じてあげた  
「関守、富原幸家なり」



▼地元の小学校では、神楽のひとつ「通舞」のレッスンが必須。子どもたちが伝統芸能に親しみながら、着ていく姿を見ることもできます。

8 小学校で神楽のレッスン？

とは、心強いカリキュラム。祖父母から父母、子から孫へ、時を超えてつながる集落の絆が、ここには脈々と生かれています。

舞台はガラリと変わりまして、  
ここは宮城県栗原市にあるお寺  
【栗原寺】。訪ねたのは南沢の  
義経通、石川氏。南沢と義経、  
その接点とは如何に？



# 南沢と義経

南沢神楽の項目にも登場する義経公。  
歴史の裏舞台から見えてきた接点とは？

平泉と義経  
基本のお話

## 義経の生涯と 東下りの伝説。

源義経は平治元（1159）年、父・源義朝と母・常盤との間に第三子として誕生し、牛若と名付けられました。義朝は平治の乱で平家に敗れ、家人に裏切られ謀殺。捕らえられた常盤と子どもたちは、常盤が平清盛の側室となることで一命を助けられました。牛若は鞍馬山に預けられ、遮那王と呼ばれるようになりまし。11歳でこれまでのいきさつを知ると、平家討伐を心に誓います。16歳の時、奥州藤原氏と親交のある黄金

## 幻のお寺に伝わる 義経伝説の裏舞台。



は神輿を持って迎えに趣いたそうです。それは盛大な行列だったんじゃないかな。

石川▼「義経記」によると、義経は栗原寺の僧兵50人の護衛を従え、堂々と中尊寺に入ったと言います。し、いかに由緒ある寺だったかが伺えます。

住職▼安永年間に記された「栗原風土記」によると、栗原寺は用明天皇2（587）年に開山し、天台宗奥州總本山を誇ったそうです。金堂を中心に36坊があり、1000人の僧を擁したのだとか。その後たび重なる戦乱で焼失し、奥州藤原氏の滅亡時に廃寺となりました。

石川▼元禄時代に再建されて上品寺となつてからは、栗原寺の存在を裏証する資料がなく、「幻の寺」と言われていたんですよ。

住職▼それが、昭和37（1962）年に始まった東北大学の発掘調査で、上品寺の境内に栗原寺金堂基跡

## 義経の死にまつわる もうひとつの物語。

石川▼頼朝に追われて逃げ落ちた平泉で、命尽き果てた義経。その後、義経の御遺骸はどのような行末を辿ったのか？ここには、もうひとつのドラマがあります。

住職▼おそらく、義経の御遺骸は「穢れ」とされ、聖地である平泉には入れることが許されず、衣川の善哉寺に運ばれました。そこで御遺骸の検証と確認の後、首と胴は分断され、藤原泰衡の弟・高衡が泰衡の名代として鎌倉まで運んだものと思われています。

石川▼衣川から鎌倉へと向かう道中も、平泉を通ることができない。すると考えられるのは、衣川から

そして22歳の時、兄頼朝の平家打倒の挙兵を知った義経は平泉を去り、頼朝のもとへと向かいました。義経の活躍で平家は滅びましたが、兄弟の溝が深まり、義経は追われる身に。傷心の義経は、再び懐かしい平泉へと向かいました。これが「義経の東下り」と呼ばれています。義経を我が子のように温かく迎え入れた泰衡は、頼朝の「義経を差し出せ」との要求を拒み続けました。しかし戦の予兆が高まる中、泰衡は病死。頼朝からの圧力を受けた藤原泰衡は、義経の館を襲いました。義経は一切聞くことをせず、妻子と共に自刃し、31歳の生涯を終えたとされています。

が、私たちが住む秋田南沢付近も通ったと言われていますよ。

石川氏▼以下石川▼義経が頼朝から逃れて平泉に向かった「東下り」では、私たちが住む秋田南沢付近も通ったと言われていますよ。

住職▼鎌倉を脱した義経は、宮城県栗原町の栗原寺に一泊し、そこから平泉の中尊寺へと向かいました。その古道・松山道の道筋に、現在の一関市秋田南沢地区が当たるとされているんです。

石川▼「それよりさらに昔の、前九年の役」でも、1万3000人の朝廷軍が松山道を進軍し、秋田南沢を通ったと考えられています。そういう歴史との関わりを考えると、なんだか感慨深いですよ。

住職▼栗原寺の名前は、古くは「吾妻館」や「義経記」にも見ることが出来ます。「東下り」の際は、藤原泰衡が150騎を率いて栗原寺に向かい、義経の北の方のために

竹寺村其園を迂回し、栗駒へと至るルートです。「東下り」の際にも通った古道・松山道ですね。

**住職**▼道中、高衛一行は義経の親友である沼倉小次郎高次を訪ねました。そこで義経の御遺骸の胴体が手渡され、手厚く埋葬されたと言われています。

**石川**▼言い伝えによれば、義経は高次の万代館から眺める景色をこよなく愛していたそうです。胴体だけとは言え、義経は心やすらぐ地に眠ることができたのではないのでしょうか。

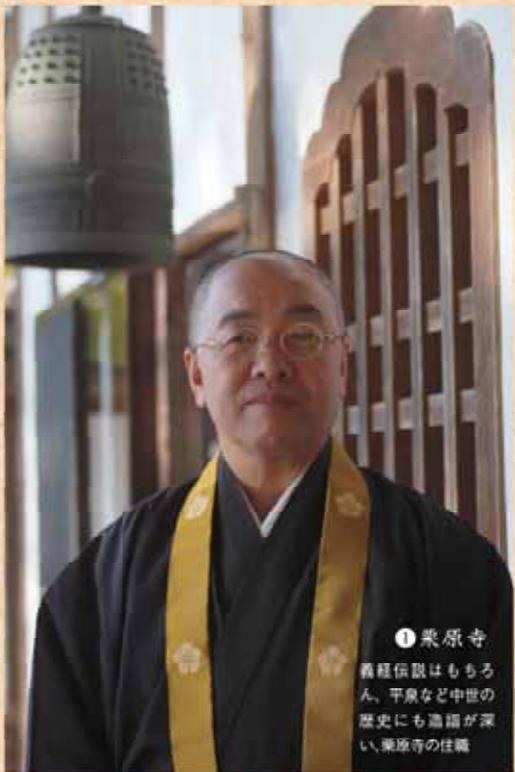
**住職**▼神奈川県藤沢市の首塚と栗駒の胴塚、義経の御遺骸は長らく別々の場所に祀られてきましたが、平成11（1999）年、お互いの塚の土を御霊に見立てて合祀されました。実に810年の年月が過ぎていました。以後、毎年7月25日に義経生誕祭を開催しています。

## 栗駒から平泉へ上る 新しい義経散策路。

**石川**▼平成21年の源義経公生誕850年祭では、伝統の南沢神楽も披露されました。この神楽にも義経が登場しますし、私たち南沢に住む者にとって、義経ってとても身近な存在なんじゃないかなあ。

**住職**▼義経伝説を語る上で、萩荘南沢もその舞台のひとつと言えます。この事実は歴史のほんの一角マではありますが、南沢の歴史や神楽文化の礎となったことには変わりありません。地元と義経の関わりを知ってほしいと思い、私の寺でも、時折、南沢と義経伝説について解説しているんですよ。

**石川**▼平泉の義経伝説の裏舞台を知るには、栗原から萩荘南沢、平泉へ巡るべし！というところ、  
**住職**▼そうですね。新しい義経ルートをもちと知って欲しいですね。



① 栗原寺  
義経伝説はもちろん、平泉など中世の歴史にも造詣が深い、栗原寺の住職



① 栗原寺  
栗城藤原康衡にある古寺。神記もあつては同じ伊達藩だった



② 判官森  
判官とは義経公、義経公の胴塚といわれる場所



② 判官森  
高衛の夢園にて

### 【栗原～萩荘～平泉】義経伝説の裏舞台に思いを馳せる立寄りスポット

ほんでんじ  
⑤ 骨寺村荘園  
▲重要文化財「陸奥国骨寺絵園」には近い形で、現在も中世社会の荘園の面影をとどめる地。

いわのまゝと ほみかいでん  
⑥ 岩ノ目館と万代館  
▲判官森を誓の一部とした沼倉小次郎高次の館「万代館」と、その祖の館跡「岩ノ目館」が並びます

むらさき  
⑦ 義経鞍轡  
▲義経が軍車鞍轡で腰として使った大山桜の枝を土に埋めたものとされる。

ほんごま  
⑧ 判官森  
▲衣川の壁で自刃した義経の亡骸を、親友だった沼倉小次郎高次が埋葬したと言われる場所。

ちんげん  
① 栗原寺  
▲義経が2度の平泉入りの際、身支度を調えたときとされる古寺。当時は巨大な伽藍が並ぶ寺だったそう。

平泉が世界遺産に登録され、奥州藤原氏の栄華とともに、再注目されてきた源義経公実は平泉・中尊寺エリアには義経にまつわる痕跡の数は少ない。もし義経を偲んで奥州を旅するのであれば、平泉に入るまえに、是非栗原寺を参拝していただきたい。いわゆる「東下り」の出发点である、今まで語られることのなかった、もう一つの義経伝説に出会えるはずです。

## 奥州の新しい 義経探訪ルート

【栗原～南沢～平泉】  
義経伝説の  
裏舞台を巡る旅

▶目の前の田んぼで作ったもち米を。前日から山の湧水につけておく。当日、薪の強火で一気に蒸し上げる。仕込み段階から気合い十分!



一 前日から仕込み、薪の強火で炊く。

毎年秋の収穫祭には、つきたてのお餅をゲストに振る舞っておもてなしする。昔ながらの「お餅つき」の様子を簡単にご紹介します!

▼特で餅米をこねます。米粒がだいたいつぶれればOK。この作業が餅つきの半分くらいです



三 まず杵で擦る様に粒をまとめて...



▲さすが薪を使った強火炊きは仕上がりが違う!もち米がピンとたって光り輝いています

二 絶妙な火加減と、蒸し時間で勝負!

▼一回杵でつく度に、一回返し手を入れるのが理想。粒がなくなつてなめらかになったら完成



▲もちを折り畳むように中心に戻します(返し手)

四 餅つきの秘密は、打ち手と返し手の呼吸。

五 あつあつを陥に絡めて完成



つきたてってスゴいっ! まだ伸びてるっ。

お餅の味付けが五十種類以上も!

ふかしたてのもち米を白と杵でつく。これが南沢の基本スタイル。お祝いの日にお赤飯を炊くように、季節の行事にお餅やケーキを食べるように。南沢ではお餅をついて皆に振る舞う。あまりにも餅つきが多いため、地元には「餅つきカレンダー」なるものも存在すると言っ。

あんこ、ごま、くるみ、栗、大根おろし、納豆、ずんだ、海老、山菜、ふすべ、じゅうね、かぼちゃ...。江戸から脈々と続いて来た餅文化は深化を続け、結果今では、南沢のお餅レシピは50種以上!一関市全体でレシピを集めると100~200種類にものぼるという。結婚式などの神聖な儀式の場合に特別で、伝統的な「お餅の作法」に従って食されるのだ。恐るべし、一関の餅文化!

「お餅には作法がございます。」

「第四幕」南沢と食

南沢お散歩手帳



↑これは珍しい!新食感の「海老餅」



↑ぼやかして揚げた「海老餅」



↑「あじさいくるみ餅」



↑「小豆もち手巾」!定番の人気あんこ餅」

の日に欠かせない南沢のソウルフード。

▶お正月や年越しは当たり前。桃の節句やお彼岸やら七夕やると、ハレの行事があるごとにお餅をべったんべったん。南沢に限らず、ここ一関には独特な餅文化があるのです

味付けは全部で50種類以上!?

南沢とお餅

ここは、南沢で作った野菜やお米・里芋・手作り雑貨など、産地価格で手に入る直売所「寄ってがえ」。ある一日の、営業を覗いてみましょう。



第四幕 南沢の直売所

09:00 土日限定の直売所、朝9時にオープン。



▶平日は農作業のためお休み。南沢に出掛けたらまずコチラへ

11:00 試飲&お茶で接客。会話しながら買物。



▶お客さんが来たらずはひと休みしてもらおう。お茶を飲んで試食しつづくり品定め

14:00 とれたて新鮮が基本。高品質でも南沢特価。



▶野菜セット100円など、直売ならではの価格設定に驚愕

16:30 売場の片付け&売上精算して閉店。



▶晩ご飯の準備時間には閉店。集落の生活リズムが営業時間



▶せんだいマルシェに参観【南沢出張直売所】  
いつものご光臨に人だかりができた



せんだいマルシェに出張参加

▶マルシェではPRも兼ねて神楽も披露。若手による真舞とお囃子に誘われて、これも大盛り



その畑で採れました。  
▶土、日営業の直売所。開店前には朝とったばかりの食材を抱えて、生産者がそろそろと嬉しそう



南沢にきたら、まずは寄ってがえ  
▶公民館の隣で駐車場もあり。集落の案内所としても活躍中

お茶っこ飲んでがえ。

おらほの直売所さ「寄ってがえ」

南沢の直売所

お茶っこ飲みながら、朝採れた野菜を選ぶ。

「ピーマン、なす、トマトセットにして100円でどうだべ？」

スーパリーのように形が整っているわけではない。けど、ツヤツヤして色もいい。こんな旬の良品が並ぶ、南沢産地直売所「よってがえ」。

「その野菜はおら作ったんだ。おまけするぞ」なんて声も飛ぶ。お店の管理も店番も、全部21人の生産者が持ち回りでやっているからだ。人件費も家賃もかからないから、価格はかぎりなく原価に近いのだ。

ある日、補助事業を利用して仙台南のマルシェに参加した。今では笑い話だが「値段が安すぎます」と運営サイドから指摘を受けたのだ。ただ、安いだけでは経済はまわらない。このことは皆が十分理解している。だからこそ、これからのために、マルシェに参加して強烈な印象を残して来たのだ。

産地直売所よってがえの旬の食材カレンダー

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月
…冬期休業中…	…冬期休業中…	…冬期休業中…	里芋—新米—味噌	里芋—新米—味噌	きのこ—里芋—野菜	秋野菜—きのこ	露地栽培の野菜・果物	露地栽培の野菜各種	白菜—豆類	山菜各種—大根	…冬期休業中…

★カレンダーは、例年の主なラインナップを参考しております。天候により旬が異なる場合がございます。

【営業日】 土日限定(冬期休暇あり)  
【営業時間】 9時~16時30分

2011年11月20日  
 仙台、東京などから定員25名が  
 南沢に集結したモニターツアー。  
 あの日の興奮をレポートします！

11:00  
 仙台の参加者が  
 ツアーバスで到着。



▲仙台・首都圏の参加者あわせて25名。南沢スタッフみんなで到着を歓迎

12:30  
 餅つき体験した  
 お餅をご堪能。



▶10種類以上のお餅料理のバイキング。他にもお母さん達の里山料理でお楽しみください！

13:30  
 里山散策チームは、お散歩＆野菜収穫。



▶秋の集落をゆったり散歩しながら、芋のこ汁の野菜をゲット

14:00  
 自給山散策チームは、頂上の本尊まで参拝。



▲南部神楽を伝承した山伏の聖地と巡る山登り。予定にはなかった頂上まで参拝

11:30  
 ふかしたての餅米を  
 みんなでべったんこ。



▶薪を使って強火で蒸し上げた餅米は、つやがあって、もちもち。初めて餅つきを体験した参加者も大喜び

12:00  
 お母さん達と一緒に  
 餅をちぎって味付け。



▲あつあつのお餅はちぎるのも大変。集落のお母さん達の手さばきを見ながらチャレンジ



15:45 幻の里芋＆秘伝の味付け  
 南沢流芋のこ汁の完成！

15:00  
 南沢の里芋、野菜、味噌  
 秘伝の隠し味で決まり！



▶芋のこ汁は男衆の腕の見せ所。最後の味見は女性達

16:00  
 里山背原に歓迎の舞。  
 義経主役の演目でメ



◀西陽に映える歓迎の舞。舞台では、南沢神楽の真骨頂「安宅の関」を披露

17:00 再会を誓って記念写真！



【南沢の収穫祭】ツアープログラム＋スケジュール

9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	
【田舎の縁側おもてなし】公民館・直売所前の広場では、集落の人々がお茶やおつまみなどを振る舞います											
仙台駅西口集合。現地へ出発！	バス	ツアー開会式	「南沢おもち料理」の里山ランチ ▼つきたてのお餅を、集落ならではの様々な付け方で味わいます	昔ながらの「餅つき体験」 ▼EM農法の新米（もち米）使用。白と絆では昔ながらの餅つき体験	南沢に到着。ツアー開会式	【A】ふらり紅葉散策＆秋野菜の収穫体験 ▶紅葉の南沢が小さなが、村の端で学童で使う野菜を収穫します ※A1コース B2コースも選択	【B】持経山紅葉ウォーク ▶南部神楽舞の地、持経山の神社を参拝。石段をのぼり、本堂でウォーキングします	南沢流芋煮づくり＆試食会 ▼収穫したての野菜と里芋を調理。南沢特製の味付けで芋煮を堪能	「南沢神楽」の演舞鑑賞 ▼南部神楽舞の地、神楽舞体験 ▼珍しい男女交際のチームによる力強く美しい舞いをご堪能あれ	ツアー開会式・南沢へ出発	仙台駅西口到着。解散

集落初のチャレンジ！モニターツアーは成功したのか？

# 南沢秋の収穫祭

都市とのご縁や交流を増やし、南沢のファンになっていただくため。郷土料理、里山散策、神楽演舞でもてなすモニターツアーを実施！

2011

【東京組限定参加！】  
 夜のモニターツアー  
 「現場をスクープ！」

ツアー前夜★  
 神楽体験＆農泊、  
 超ダイブな夜。

今回のモニターツアーは元々日帰りの設定。しかし「神楽文化」に興味を持って参加する東京組の10人には物足りない。「前日にお邪魔して神楽の練習を体験できないか」という声に応える形で実現したのが、本ツアー前夜の「神楽体験農泊ツアー」。これがまた大盛況！民謡好きのニュージランド人も入り乱れて、ダイブな国際交流が繰り返された。誰かが歌えば、誰かが踊り、次は俺だ！と歌います。都会では体験できない生身の交流。そして、夜は深夜まで続いたという...



こんな素敵な田舎になったらいいな。

# 南沢の未来

こんな素敵な田舎になったら…。きょうと子どもも親も、じいじにばあばも、地元の人も都会の人も一緒に暮らせる場所になる。南沢は夢を叶えるために進んでいきます。



「其の四」里芋&米オーナーの里。

南沢がなぜ、ここまで地域活性化事業に積極的なのか。理由は1つ。集落の皆が、経済的にも人間的にも豊かな生活が送れるようになること。ここでは農業が生業の中心。農業収入の安定と交流人口の拡大が、豊かな生活に繋がる。そこで早稲子アレンジするのが「里いものオーナー制度」。収穫の時期には、オーナーがやってきて、楽しみながら農作業を手伝ってくれる。夜は里山料理を振る舞いながら、オーナーと生産者が交流する人が元気になる。きっと集落全体が豊かになっていくはずだ。



「其の参」農泊ができる集落。

せっかく田舎に出掛けるなら、日帰りではもったいない。夜の星空や朝焼けの美しさも知って欲しい。顔を突き合わせを会話もしたい。ご飯を食べて、神楽の舞など見ていただきながら貸いで欲しい。宿泊施設を新たに設けることは難しい。では、村全体をひとつの【宿】とみ立ててはどうか。そんな取組みが、南沢では徐々に始まっているという。

### 今後の取組み。

▶次世代への伝承。集落を越えた神楽交流。舞台としての認知度アップ。同じ伝統ではなく、開かれた伝統として活動が続けていく。



「其の式」神楽舞台がある田舎。



「今月のゲストは〜県〜地区の〜神楽。海火を使った会場で、美味しい♪♪♪を飲みながら、神楽の舞を鑑賞してみたいががが。もしも神楽に神楽舞台がある。そんなイベントを開催することによって、神楽を興うことで収入を得ることができる。そんな環境が整えば、きょうと若い世代にも無理なく伝統を託すことができるはず。



「其の老」農家食堂がある田舎。

「田舎の味が恋しくなる」そんな時、ありますよね。食材は、隣接する直売所から仕入れるので鮮度抜群！しかも良質な食材を安く提供できる。ふと田舎が恋しくなった時に立ち寄れる。そんな農家食堂があったらいい。目の前の畑から、好きな野菜を収穫して調理してもらおう。そんな場所があったら、きっと楽しい！」



### 今後の取組み。

▶直営な食堂を建てる力は、今集落にありません。まずは直売所やモニターツアーを中心とした【食の交流】によって、一人でも多く南沢の魅力を伝えたいです。

### 南沢からのお知らせ掲示板

## 「里いも農園オーナー」募集のご案内です！

このたび、南沢では【里いも農園】のオーナー制度を開始します！オーナーの募集が始まっておりますので、告知させていただきます。詳しくは次のページへ！



岩手県一関市萩荘南沢地区

# 里いも農園オーナー 申込書

申込日	年 月 日		
お名前	フリガナ		男・女
			歳
ご住所	〒		
自宅 電話番号		FAX 番号	
メール アドレス			

※ご記入いただいた個人情報は、連絡や里芋の発送など、当該の目的以外に使用することはありません。

【Aコース】1口5株(5kg以上)		【Bコース】1口5株(5kg以上)	
□	円	□	円

※必要事項を記載して、下記申込み先へ FAX してください

※お申し込みの FAX 番号はコチラ→ FAX：0191-38-2314

※お問い合わせはコチラ→ TEL：0191-38-2314

## いわて・南沢里芋生産組合

〒021-0102 岩手県一関市萩荘字南沢 34-1

TEL&FAX | 0191-38-2314(事務局 | 石川浩)



南沢の特産物「土垂（どたれ）里芋」は、  
ねばりと旨味が強く、煮崩れしにくい優れたもの。  
市場に出回らないこの貴重な里いもの農園オーナーになって  
田舎暮らし体験をしてみませんか？

# 里いも農園オーナー 募集のご案内です！



### 里いもづくりスケジュール

定植(植付け)	5月上旬
土寄せ	7月上旬
土寄せ	8月上旬
収穫	10月中旬～下旬
オーナー祭り	収穫に合わせて開催

### オーナー農園について

#### オーナー料金

【Aコース】1口5株(5kg以上) 2,500円

▶収穫時に掘り出して持ち帰り出来る方

【Bコース】1口5株(5kg以上) 3,500円

▶収穫後、宅配便での郵送希望の方(送料込)

★200口になり次第、受付終了となります

#### 収穫の時期

10月中旬 ▶収穫祭として催し物を計画！

## 岩手県一関市 萩荘南沢集落の プロフィール

軽々な取組みによって、集落をPRしようとしている萩荘南沢。とはいえ日本の田舎に共通する問題、人口減少・高齢化・少子化は深刻です。ただ、この流れを変えて、いつか三世代が安心して暮らせる田舎を目指して邁進するのです！

### 南沢の人口 (2011年1月現在)

【世帯数】全 28 世帯  
【人口】103 人(男性 57 人・女性 56 人)  
【高齢者率】37.2%  
▶小学生以下の子ども 3 人

### 南沢の特産物

【春】山菜、春野菜  
【夏】路地栽培の夏野菜  
【秋】新米(有機EM米)、里芋  
【冬】新米(有機EM米)、里芋

### 南沢の地域活動グループ

【南星会】青年部。神楽の伝承を含め、次世代の集落を背負う担い手  
【母親会】イベントの際に、美味しいお料理の準備や会場整備を担う  
【産直グループ】21名の生産者たち。直売所への卸し、運営を担当

### 南沢へのお問い合わせ

南沢産地直売所「寄ってがえ」  
tel | 0191-38-2407  
住所 | 岩手県一関市萩荘字南沢 38

### 8 南沢神楽伝承の地 神聖なパワースポット 「自鏡山」「吾勝神社」



▲南沢からも見える三角山。雲映あたたかなパワースポット



▲出羽三山系の山伏が信仰し修業する場であった



▲頂上までは厳道を登る。神聖な空気をピンピン感じます



▲参道の壁にある神楽奉納。普段は閉じているが、年2回の奉納神楽の大事な舞台だ

### 5 神聖な水と柿の水



▲山神様の清水が湧きだすスポット。その近くに住む、村一番の長老さん。見事な柿の木も水のおかげ?

### 6 南沢特産の「里芋畑」



▲南沢の将来を担う特産品「里芋」。オーナー制度を取り入れた「里芋オーナーツーリズム」も計画中

### 7 直売所直前の「野菜畑」



▲基本的に自分が食べて、食べきれない量になったら直売所へ出品する。無駄のない食料サイクルだ

### 4 古戦場跡へ続く山道 & 丘の上の古民家。



▲新鮮野菜が驚きの価格で手に入る直売所。駐車場に車を止めて、散歩してもよし

### 3 駐車場完備の「直売所」



▲南沢の中心地。神楽の練習会場もこちら。イベントの際には公民館が大活躍します

### 2 直売所の隣「公民館」

### 1 萩荘南沢の田園風景(秋)



知らない土地、観光地でもない場所に訪ねる機会はないかな。一方で、目的を持たない旅にも憧れる。「ただのんびりと、美しい田舎を散歩する旅もいい」。ふとそう思ったなら、是非南沢に行ってみてください。まず直売所にいけば、看板娘(当番のお母さん達)がお茶や試食でもてなしてくれるはず。散歩道を教えてもらったら、車を置いてカメラ片手にぶらりと歩く。農作業をしている人がいたら、どうぞ声をかけてください。野菜を貰えるかもしれません。田舎の日常に溶け込む心地良さを、感じてみてください。



直売所でお買い物したら遠慮なく散歩してける。

# 南沢お散歩地図

南沢を訪ねることがあれば、是非この地図をお持ちください。この南沢お散歩地図は「ゲスト」の証。きっと皆笑顔で迎えてくれるはず。



萩荘南沢は、いつ訪れても美しい田舎があります…。

